

陸自対空レーダーを用いた 実測調査の実施について (イージス・アショアの配備関係)



平成31年1月28日
防 衛 省

実測調査を実施するに至った経緯等

これまでの経緯等

- イージス・アショアの導入に関し、配備候補地の新屋演習場とその周辺において、各種調査を実施してまいりました。
- 昨年10月から電波環境調査を実施し、本年1月17日から25日までの間は、演習場周辺の電波状況等を把握するため、「現地調査」を実施したところです。
- 他方、人体への影響について、地元の皆様から「机上検討（シミュレーション）のみで大丈夫なのか」といった御意見を頂いておりました。

実測調査の意義等

- イージス・アショアに搭載するレーダーは今後製造されるものであるため、今の段階では、このレーダーをもって電波の実測をすることはできません。
- また、机上検討については、電波法施行規則に基づき、無線局の設置に際しても採られる通常の手法であり、人体への影響の有無を確認する手段として妥当なものと考えています。
- しかしながら、地元の皆様の御意見を踏まえ、他のレーダーを用いて電波を実測した値と、あらかじめ当該レーダーの諸元から机上計算した値とを比較し、その妥当性を実証することで、机上検討が手法として妥当なものであることを御理解いただく一助となると判断し、実測調査を実施することとしました。

本調査で用いるレーダーは、イージス・アショアに搭載するレーダーと性能等が異なります。そのため、この調査は、イージス・アショアのレーダーの安全性を補足するために行うものである点を御理解いただきたいと思います。

実測調査(陸自対空レーダーを用いた電波の実測)

- 新屋演習場において陸自が保有する対空ミサイル・システム（通称“中SAM”）のレーダーから電波を放射し、その強度（単位：mW/cm²）を実測します。
- 本調査は、総務省が定める「電波防護のための基準への適合確認の手引き」に基づく方法で実施し、測定作業は委託業者が行います。

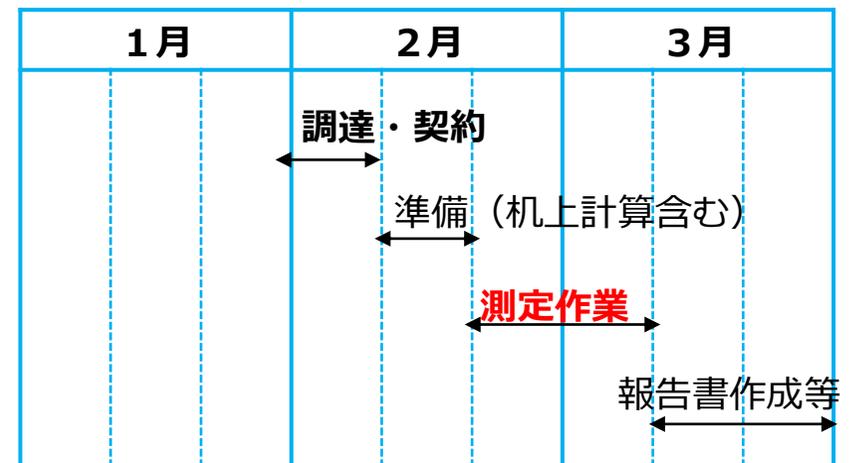
陸自中SAM

- 陸自中SAMは、航空機や巡航ミサイル等に対処するための対空ミサイル・システム。
- 我が国のイージス・アショアに搭載するレーダーと同様のSバンド帯（2～4GHz）を使用します。
- 新屋演習場で使用中SAMは、陸自高射学校（千葉県）から一般道を利用・自走にて運搬予定。



今後のスケジュール案

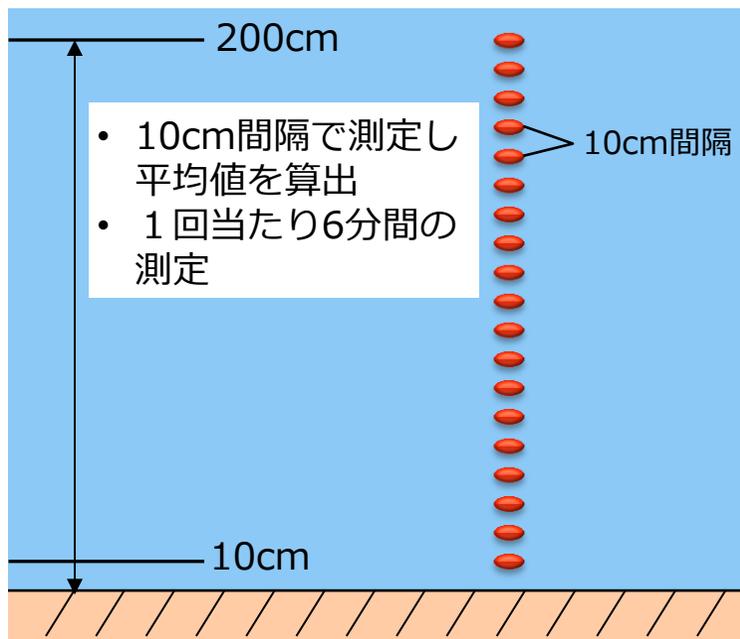
- 現地での測定作業は、2月下旬～3月上旬に4日間程度で実施します。
- 具体的な細部要領については、測定作業の開始前に、別途御説明します。
- 実測調査の結果については、現在実施中の各種調査の結果と併せて説明する予定です。



実測調査の概要

- 地表から10cm~200cmの範囲を10cm間隔で、電波の強度 (mW/cm²) を測定。1回当たり6分間の測定により平均値を求め、1測定地点当たり計20回行います。
- 20回の測定のうち最大の値を、当該地点での電波の強度とします。なお、具体的にどの地点で測定作業を実施するか、どの方向に電波を照射するかなどの細部については検討中です。

測定方法



測定作業



今後の予定等

- 今後、委託業者と契約を締結した上で、実測調査の実施要領（細部）を検討し、実測する日時・地点、電波を照射する回数・方向などについて具体化を進めてまいります。現地での作業に入る前までに御説明する予定です。
- 本調査の実施に当たっては、演習場内で作業等を完結し、演習場外に影響のないように作業を行います。
 - ✓ レーダーは、電波照射の操作を十分に習熟している陸上自衛官が取り扱い、委託業者は、測定器材を用いて電波を計測します。
 - ✓ メインビームは住宅街等のない空中に向けて照射し、決して地表に向けられないよう、複数名によるダブルチェックを行います。
- 調査結果については、各種調査の結果とともに御説明することとし、来年度以降となる予定です。説明内容については、具体的で分かりやすいものとなるよう努めてまいります。
- なお、イージス・アショアに搭載するレーダーが完成した際には、当該レーダーを用いて実測を行い、電波防護指針に定める基準を満たしているか、確実に確認してまいります。